■Feature article

第 14 回滅菌供給業務世界会議 2013 レポート

田中 加津美*[1, 2]

*[1] 東京医療保健大学大学院　周手術医療安全学

*[2] 近畿大学医学部附属病院

A report on the 14th World Sterilization Congress & the 8 National Sterilization Disinfection Congress of Turkey

Kazumi Tanaka [*1,2]

[*1] Division of Perioperative Healthcare Safety and Management Postgraduate School Tokyo Healthcare　University

[*2] Kinki University Hospital,

2013 年 11 月 6 日から 9 日に Susesi Convention Center, Antalya, Turkey で開催された World Forum for Hospital Sterile Supply (WFHSS) The 14th World Sterilization Congress & the 8 National Sterilization Disinfection Congress of Turkey：第 14 回滅菌供給業務世界会議・第 8 回トルコ国際滅菌消毒会議に参加した。WFHSS は世界各国の病院滅菌供給業務関係者団体が参加登録した国際組織であり、今回は Disinfection Antisepsis and Sterilization Association (DAS) との合同開催となり、各国から滅菌供給業務に携わる医療従事者が集まった。

11 月 6 日 17：30 からはオープニングセレモニーが始まり、DAS president, Murat Gunaydin , WFHSS president , Wim Renders より歓迎の言葉があった。その後、大画面に映し出されたトルコの自然あふれる風景や、数名の男性が舞台上を所狭しと踊り回る民族舞踊などに初めて参加する海外学会に心躍らせた。

11 月 7 日から 11 月 9 日までは、WFHSS 13 セッション、DAS 16 セッションが行われた。その中から、興味を引かれたいくつかの講演についてレポートする。

トルコの民族舞踊

Central Sterile Supply Department (CSSD：中央滅菌供給部門) について

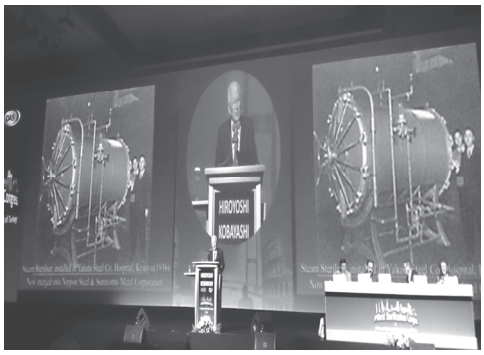
CSSD に関する演題は多くあり、教育に関するもの、質保障に関するもの、システムに関するものなど多くの視点からの発表がなされていた。

フランスの Pharmacy−Sterilization Department, University Hospital of Strasbourg の Benedicte Gourieux 氏は「Sustainable Development：A New Approach in Quality Management for CSSD」という演題で中央滅菌供給部門の質管理について講演された。

持続的な発展は我々の社会と大きく関係があり、それは天然資源の使用、廃棄物の分別、省エネルギーなどがあげられる。”Barometer of sustainability of health facilities” ”Indicator of Sustainable Development in Health (IDD Health)” “Certification V2 V2010：The French National Guidelines”において推奨されている行動が、持続可能な開発基準として表示されている。そのガイドを使用して、滅菌工程管理、サポートプロセスを評価したことについての発表であり、評価が更なる進展につながることで、滅菌供給部門の質が向上することを学べた。

また、小林寛伊先生は「Central Sterile Service in Japan」というテーマで、日本における蒸気滅菌の歴史、中央滅菌室の運用の変遷などを貴重な写真を交えて講演された。数十年前に小林先生が行われていた中央滅菌室の運用方法が、現在の私の業務では最近やっと実施できるように

なったことに驚き、先駆者の考え方や対策がどれほど貴重な道標であるか再認識した。また、私の前の座席に座っていた他国の参加者が、スライドの写真を指して驚きの声を上げており、どの国にとっても歴史は自分たちの現在を支える重要なことであると感じた。



講演中の小林寛伊先生

歯科領域の感染対策について

ドイツの Institute of Hygiene and Environmental Medicine, Medicine Greifswald の Professor Axel Kramer（東京医療保健大学大学院 Professor Invited でもある）は「Key Points of Infection Control in Dental Practices」という演題で講演された。歯科診療では機器を介して病原体の伝搬があるということについて述べられた。それは、2003 年、2004 年、2005 年および 2009 年に実施された、歯科医院による大規模疫学調査の結果からも証明された。そこで、感染管理の Key Point が示され、手指衛生、医療機器の安全な再処理、歯科ユニット内の水の管理、口腔消毒と予防的抗生物質の投与、歯科スタッフと物品の管理が標準作業手順で行われているかということであった。特に、歯科用器具の再処理は、制御可能な問題であり、血液・分泌物、または組織の残骸で汚染されている機器の効果的な洗浄は、消毒または滅菌のプロセスのための重要な条件であることを述べられた。また、十分に解決されていない問題は、バイオフィルムを形成する歯科用ユニットのウォーターラインであるといわれていた。

歯科領域については日本においても問題視されており、課題として考えなければならないことであると認識した。

ポスター演題について

ポスターは全部で 154 演題が登録され、開催国トルコからの登録が最も多く、112 演題であった。次いで、ブラジル 20 演題、フランスと日本が 5 演題、ギリシャ 3 演題、イタリア 2 演題であり、その他はインドネシア、パキスタン、クロアチア、香港、アルゼンチン、イギリス、カナダから各 1 演題であった。

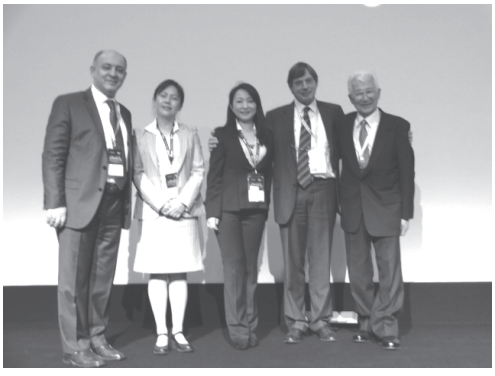
東京医療保健大学大学院からは、吉田理香准教授による “The Influence of Low Temperature Sterilisation on Plastic Surface”、感染制御学博士課程 3 年の神 貴子さんによる “Study on the Reliability of Pouch with a Side Gusset Type of Sealing Quality”、周手術医療安全学修士課程 1 年の私の “Study on Cleanliness of Loan Instruments by Adenosine Triphosphate（ATP）” の 3 演題が展示された。1 施設から 3 演題のポスターが出展されたのは、参加施設の中で最も多いと思われる。

Best poster presentation：4 演題の発表

学会最終日の 11 月 9 日には、事前に選出された優秀 4 演題のプレゼンテーションが行われた。優秀ポスターには、トルコ、カナダ、ブラジル、日本と、それぞれ違う国の発表者が選出され、日本からは東京医療保健大学大学院　吉田理香准教授のポスター演題が選ばれた。そして、4 人それぞれの口頭プレゼンテーション 10 分+質疑 5 分の結果が審査され、吉田准教授が、最優秀ポスター賞に選出された。その後、DAS president, Murat Gunaydin , WFHSS president , Wim Renders より閉会の挨拶があり、学会が閉会した。

次回、The 15th World forum for Hospital Sterile Supply (WFHSS) 2014 は、2014 年 10 月 15 日～10 月 18 日、チェコ共和国のプラハにおいて開催されることが発表された。

今回、第 14 回滅菌供給業務世界会議 2013 に初めて参加し、また海外学会へのポスター演題登録も初めて行った。私の英語力では、どれほどのことが吸収できたのか甚だ不安ではあるが、滅菌供給部門に携わる医療従事者として、更にグローバルな視点で積極的に情報の収集・交換を行っていかなければならないと強く感じた。


Dr.Murat Gunaydin、筆者、吉田理香、
Mr.Wim Renders、小林寛伊（敬称略）